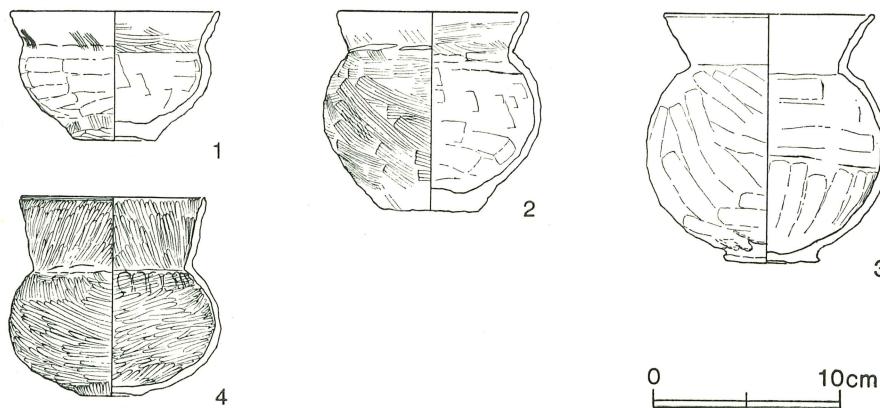


II 金屋池脇遺跡発掘資料



付載第2図 金屋池脇遺跡出土土器

金屋池脇遺跡は、故小沢国平氏が1962年に調査された遺跡で、方形周溝墓の検出された最も古い例の一つである。既にその概要是知られる所であるが、倉林後遺跡と地理的に近接し、時期的にもほとんど同時代であるということから、あわせて報告するものである。

(山下秀樹)

付載 2 金屋池脇遺跡資料観察表

器種	番号	大きさ(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
碗	1	口径 11.2 器高 6.9 底径 4.3	口縁部に最大径、外傾して立ち、端部は丸い。頸部弱くくびれ、体部は小さく張る。上げ底風の小さな底部へ急激につぼまりながら移行。整形丁寧。形態整う。	口縁部外面斜位、内面横位、斜位刷毛目。体部内外面横位箄ナデ。体部下端縦位乃至斜位刷毛目後箄削り、滑沢。底面箄削り、滑沢。胎土細。焼成良。淡赤褐色。	1/2弱
鉢	2	口径 10.2 胴径 11.6 器高 10.6 底径 5.1	口縁外傾して立ち、端部は丸い。頸部弱く「く」の字にくびれる。胴部やや丸く、中位に最大径。底部平底。整形丁寧。形態整う。	口縁外面斜位刷毛目後ナデ。内面横位刷毛目後ナデ。頸部に箄痕一周。胴部外面斜位刷毛目、若干の重複あり。内面横位箄ナデ。底部内面指圧整形。底面箄削り。胎土細、ザラつく。焼成良。淡褐色。	口縁部一部欠
壺	3	口径 11.2 胴径 12.8 器高 13.2 底径 5.0	やや長い口縁外反気味に立ち、端部は丸い。頸部「く」の字に屈曲。胴部は球形。平底の底部は中央やや凹む。整形丁寧。形態整う。	口縁部はナデ。胴部外面斜位箄削り、下端部は粘土のはみ出しを残す。内面上半部横位、下半部縦位箄ナデ、平滑。胎土細、ザラつく。焼成良。淡赤褐色。	ほぼ完
壺	4	口径 9.8 胴径 11.3 器高 10.55 底径 3.3	口縁若干外傾して立ち、端部外面に浅い沈線一周、端部は尖る。頸部弱く屈曲。胴部やや丸く、中位に最大径。小さな上げ底の底部。整形丁寧。形態整う。	口縁部内面斜位、胴部内外面横位、頸部および胴部下端外面縦位箄磨き。頸部内面指押え後、横位箄磨き。底面箄磨き、外縁面取り全面滑沢。胎土細。焼成良、硬。淡橙褐色。丹塗か。	完